

公社事業活用户（受け手農家）を対象とした アンケート調査の結果

20年度実施・・・19年度活用户を調査対象

1. 調査目的

農業従事者の減少、高齢化が進展し、耕作放棄地が増加している中で、国としても農地法の改正を行い、農業の生産基盤である農地の利用集積、有効活用を図っていく施策が進められています。

そこで、農地の面的集積を促進する仕組みの全国展開として施策が進められているなか、当農業公社は、農地の売買事業等を中心に中間保有機能の効果的な活用で、面的集積を補完的に進めてきております。

このようなことから、農地を取得した農家に対し、当公社の売買事業を活用してどうだったか、これから自らの経営に対する考え方、さらには公社運営に関してのご意見などを幅広く伺い、農業経営をするうえにおいて利用しやすい公社となるよう、業務の改善や新たな取り組みに活かしていくことを目的に調査を行いました。

2. 調査数

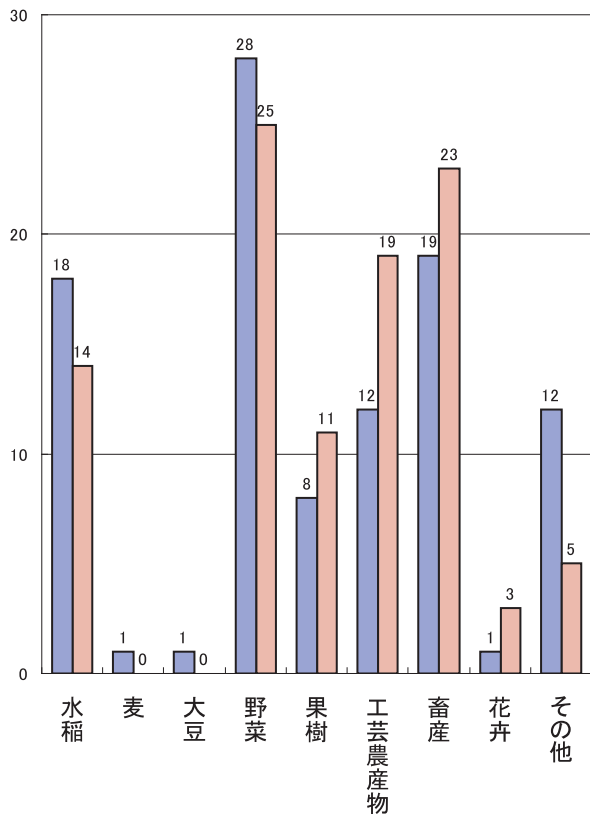
19年度に公社を活用された県内の規模拡大農家226経営体に調査票を配付し、136経営体

3. 調査内容別結果

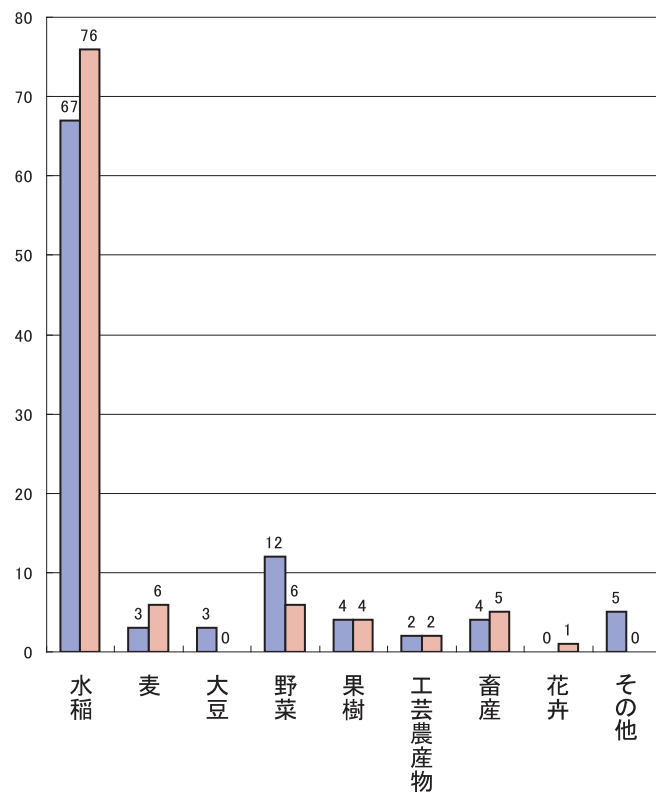
Q1 あなたの経営について、販売収入の多い順はどれですか。（1番に◎、2番に○、3番に△）（%）

	1位		2位		3位	
	18年度	19年度	18年度	19年度	18年度	19年度
水 稲	18	14	67	76	27	19
麦	1	0	3	6	23	22
大 豆	1	0	3	0	12	8
野 菜	28	25	12	6	12	30
果 樹	8	11	4	4	8	3
工芸農産物	12	19	2	2	2	1
畜 産	19	23	4	5	11	3
花 卉	1	3	0	1	0	0
そ の 他	12	5	5	0	5	14
計	100	100	100	100	100	100

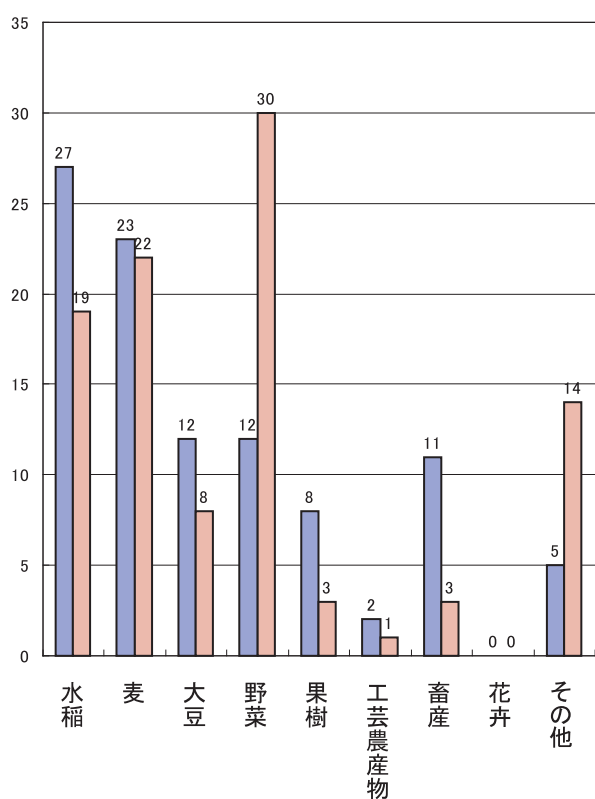
1位



2位



3位



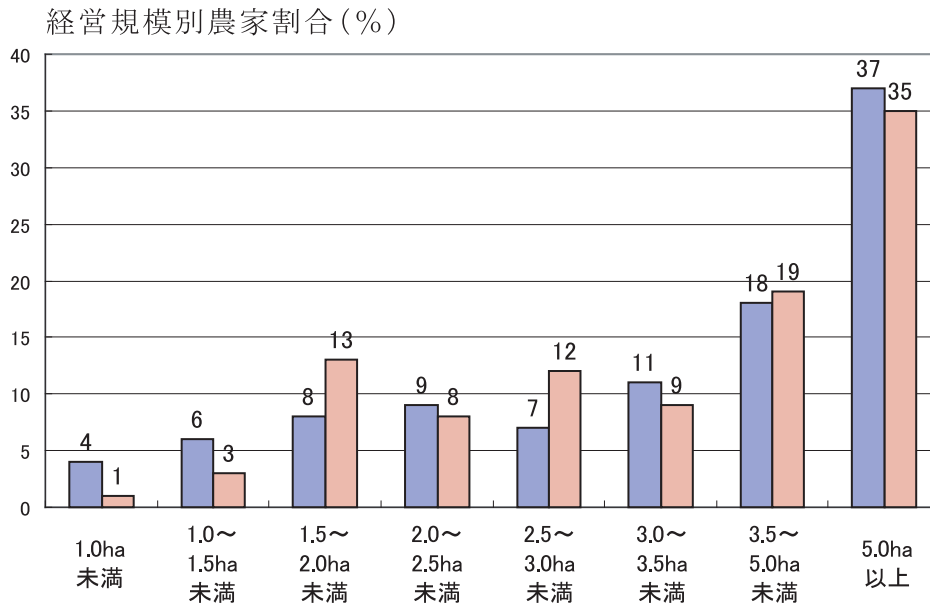
【コメント】

販売収入の1位で一番多かったのが、野菜の25%、次いで畜産23%、工芸農産物の19%の順となっており、その次に水稲の14%となっている。

次いで2位で一番多かったのが、水稲の76%と高く、3位では野菜の30%、次いで麦の22%の順になっており、水稲を上回った。

Q 2

あなたの農業経営規模は（借入地を含む）次のどれですか。



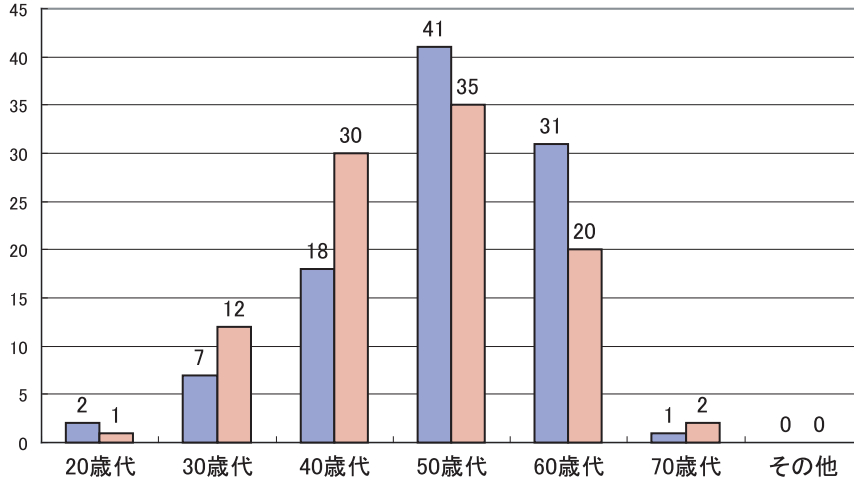
	1.0ha 未満	1.0～1.5ha 未満	1.5～2.0ha 未満	2.0～2.5ha 未満	2.5～3.0ha 未満	3.0～3.5ha 未満	3.5～5.0ha 未満	5.0ha 以上	計
18年度	4	6	8	9	7	11	18	37	100
19年度	1	3	13	8	12	9	19	35	100

【コメント】

公社から農地を買われる農家の経営規模を見ると5 ha 以上の農家が35%と多く、前年度と同様、規模が大きいほど農地拡大がうかがわれる。

Q 3 あなたの年代は次のどれですか。

年代別割合 (%)



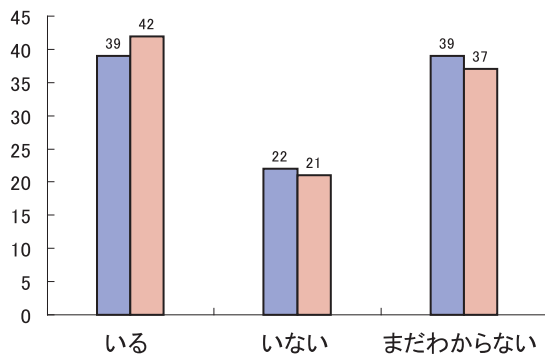
【コメント】

農地の取得年齢は、前年度よりもやや低下したものの、50歳代が最も多く35%、次いで40歳代で30%と前年度よりも12ポイント上回り、逆に60歳代が20%で前年度より11ポイント下回った。

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	その他	計
18年度	2	7	18	41	31	1	0	100
19年度	1	12	30	35	20	2	0	100

Q 4 あなたの家では農業の後継者はおられますか。

農業後継者の状況 (%)

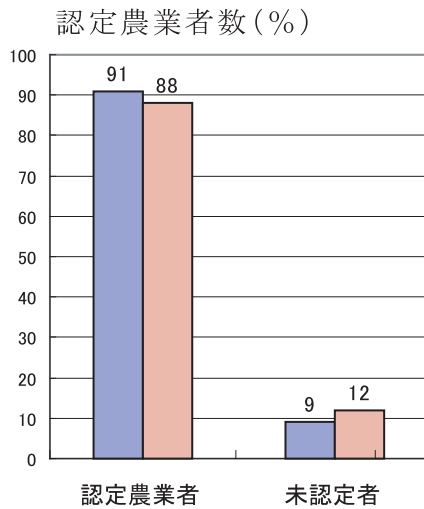


	いる	いない	まだわからない	計
18年度	39	22	39	100
19年度	42	21	37	100

【コメント】

「後継者がいる」42%で、反面、「後継者がまだ決まっていない」農家も37%いる。また、いないと答えた農家は、21%で、決まっていない農家を合わせると58%となり、前年度と大きな変わりはないが、今後の後継者が課題。

Q 5 あなたは認定農業者ですか。



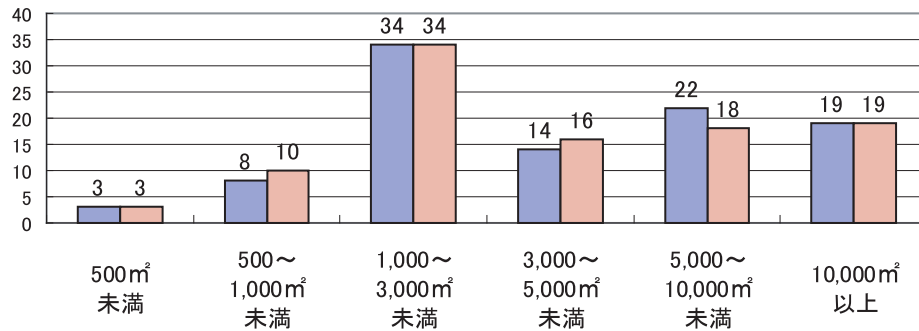
	認定農業者	未認定者	計
18年度	91	9	100
19年度	88	12	100

【コメント】

公社活用農家の約9割が認定農業者となっている。

Q 6 あなたが公社より買入れた面積は次のどれですか。

取得面積規模 (%)



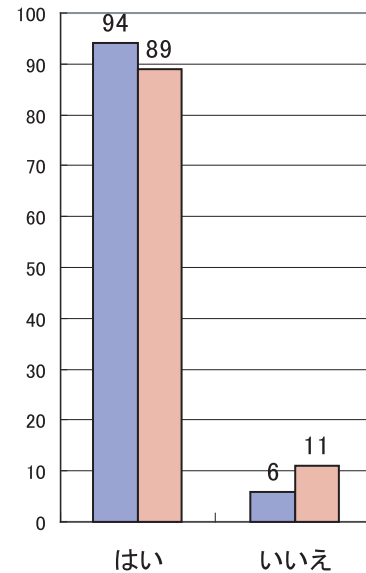
	500m ² 未満	500～1,000m ² 未満	1,000～3,000m ² 未満	3,000～5,000m ² 未満	5,000～10,000m ² 未満	10,000m ² 以上	計
18年度	3	8	34	14	22	19	100
19年度	3	10	34	16	18	19	100

【コメント】

買入面積は1,000～3,000 m²未満が前年度同様、最も多く34%、また5,000 m²以上で37%を占めている。

「いいえ」とした場合は、その理由をお願いします。(%)

	はい	いいえ	計
18年度	94	6	100
19年度	89	11	100



- ・ 事前に小作をしていた。
経費が増えている。
後継者がいないから。
- ・ 借地で良かったが地主さんの要望により、仕方なくというところ。
農業情勢、農産物の低迷。
- ・ 土地を買入れた分の利益を出すまでにはまだ日時がかかる。
- ・ 農地代の支払がきつい。
- ・ 借入金の返済で生活面に負担がかかり、また収入が減っている。
- ・ 水稲のみの作付けのため、経費の高騰、悪天候、米価低迷のため投資した成果があがらない。(くたびれ損)
- ・ 後継者がいないから。
どちらとも言えない。
- ・ 今まで耕作していたので変わりなし。
- ・ あまりにも少ない面積なので何を作ったら良いかわからない。(500㎡未満の農地取得)
- ・ まだわからない

【コメント】

農地の買入で規模拡大してよかったとする農家が89%で、前年度に比べ5ポイント減少し、逆に「いいえ」と答えた農家は11%と、前年度より、5ポイント増加した。

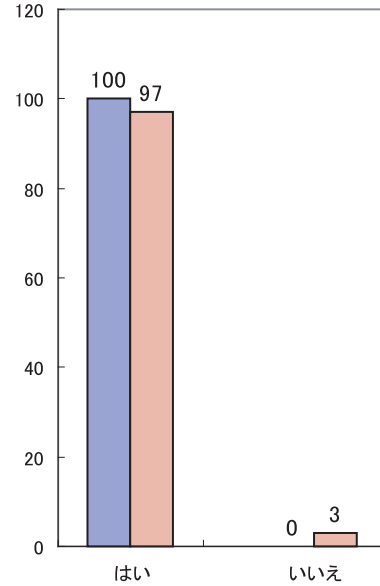
理由としては上記の通りで、思うような収益が上げられないことが伺える。

Q 8

農地の面積を拡大した時、公社の事業を活用して良かったと思いますか。

「いいえ」とした場合は、その理由をお願いします。（%）

	はい	いいえ	計
18年度	100	0	100
19年度	97	3	100



『はい』の解答

- ・安心できる
- ・売買がスムーズにいきました。特に地主に納得できる説明ができました。
- ・経済的に支払が無理しなかった。
- ・税金がかからないのがいいですね。

『いいえ』の解答

- ・年ごとに収入が変動するのに2・3年調子が悪いと公社の対応が悪い。
- ・公社の場合少し土地代が高いように思われる。
- ・保証料とか負担金などの認識がなく、すべての支払金額合計、その他経費に農地の買入時の金額がよくわからないまま買入れてしまった点。

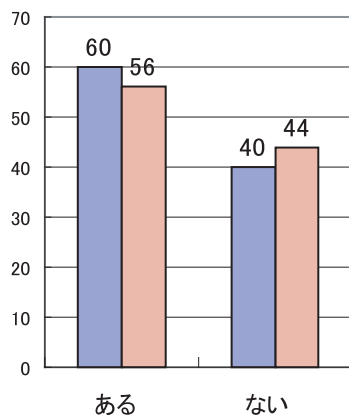
【コメント】

公社を活用して良かったと回答した農家は97%で前年度100%から減少。逆に「いいえ」の解答が3%あり、その理由としては上記のとおり。

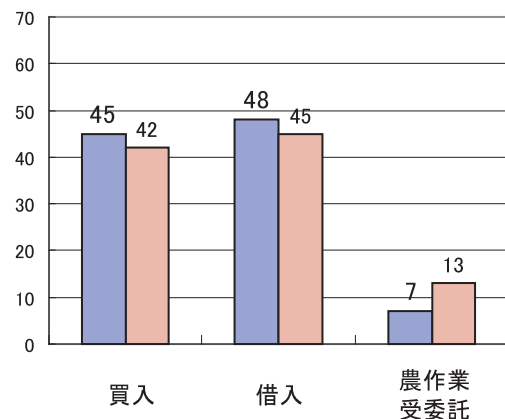
Q 9

今後、経営規模を拡大する予定がありますか。

今後の規模拡大計画について



「ある」の場合は、次のどれで行いますか（%）



今後の規模拡大計画について

	ある	ない	計
18年度	60	40	100
19年度	56	44	100

「ある」の場合は、次のどれで行いますか（％）

	買入	借入	農作業受委託	計
18年度	45	48	7	100
19年度	42	45	13	100

【コメント】

今後、「規模拡大計画がある」と回答した農家が56%で前年度を4ポイント減少し、「ない」は44%と前年度よりも4ポイント増加した。次に、「規模拡大計画がある」と回答した農家で、買入で拡大するが42%、借入で拡大が45%とほぼ同数となっている。

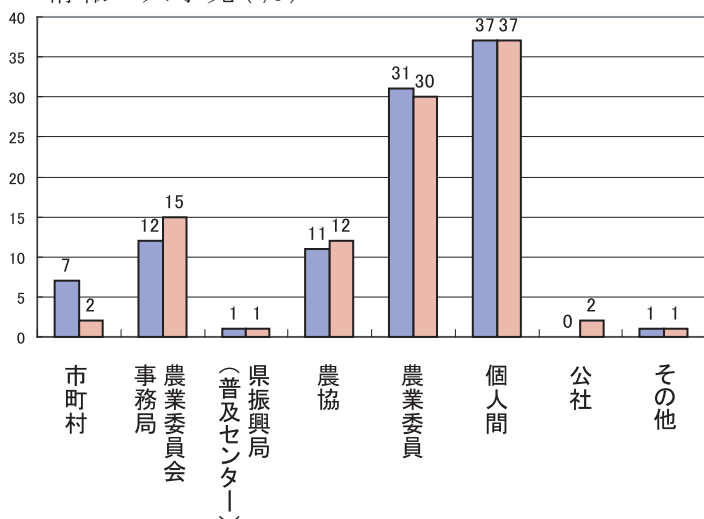
また、農作業受委託での拡大が13%と前年度より6ポイント増加した。

なお、規模拡大計画が「ある」の場合、再度、公社を利用するかについては、利用するが97%であった。

Q10

売買／貸借／作業受委託等の情報は一般的にどこから入手しますか。

情報の入手先（％）



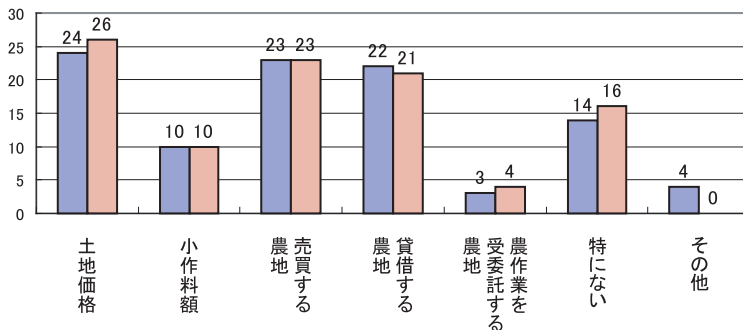
【コメント】

情報については、「個人間で情報入手」が一番多く37%、次いで「農業委員から」が30%、「農業委員会事務局」からが15%、「農協」からが12%の順で前年度と順位は変わっていない。

	市町村	農業委員会事務局	県振興局(普及センター)	農協	農業委員	個人間	公社	その他	計
18年度	7	12	1	11	31	37	0	1	100
19年度	2	15	1	12	30	37	2	1	100

Q11 農地について、一番ほしい情報は何ですか。

一番ほしい情報について(%)



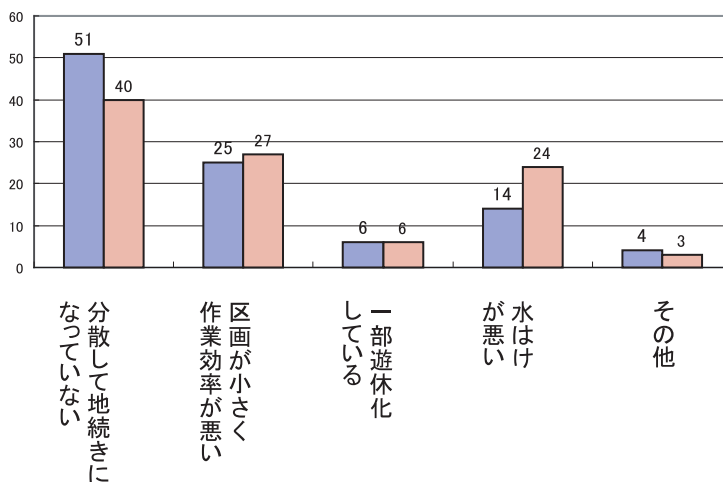
【コメント】

情報については、「土地の価格」が26%、次いで「売買する農地」23%、「貸借する農地」21%の順で前年度と変わらず、全体の7割を占めている。

	土地価格	小作料額	売買する農地	貸借する農地	農作業を受委託する農地	特にない	その他	計
18年度	24	10	23	22	3	14	4	100
19年度	26	10	23	21	4	16	0	100

Q12 あなたが所有又は借入れている農地、農作業受託農地について課題は何ですか。

いくつでも○を付けてください。(%)



課題についての意見

- ・ 取り付け道路がない
- ・ 石が多い
- ・ 水の侵入、不必要なとき
- ・ 農産物の販売価格が厳しく小作料の料金が決めにくい

【コメント】

課題として「分散して地続きになってない」が40%あり、「区画が小さく作業効率が悪い」が27%で併せると約7割となり面的集積が求められる。

	分散して地続きになっていない	区画が小さく作業効率が悪い	一部遊休化している	水はけが悪い	その他	計
18年度	51	25	6	14	4	100
19年度	40	27	6	24	3	100

Q13

上記Q12の課題を解消するためには、今後、何が必要となりますか。

いくつでも○を付けて下さい。

	効率的な土地利用をするために農地の集積が必要である	集落内での土地利用計画に対する話し合い（合意形成）が必要である	集落図面（分布図）等が必要である	簡易な整備（暗渠排水、畦倒し等）を含め圃場整備が必要である	特になし	その他
18年度	42	22	6	17	10	3
19年度	41	19	6	21	12	1

【コメント】

課題の解消として、「農地の集積が必要」と考える農家が41%と多く、次いで「簡易な整備を含め圃場整備が必要」が21%、「集落内での土地利用計画に対する話し合い」が19%の順になっている。

【その他会社へのご要望等】

小学校区ぐらいの小さな範囲で、ミニ公社を作って情報等（地域とか現場に近い）話し合い、そして世話役などを作って農地の集積を、やる気のある人に早く集積し、魅力ある農業を早急に実現させてほしいと思います。

隣地を買い入れるときに認定農業者だから有利な条件はないか、JAに相談に行き公社の存在を知りました。前年農地を取得した人にそのことを話したら知らなかったと残念がっておられましたが、売買に関してのシステム等をJAなり関係機関により、徹底してアピールすべきと思います。

今、農業が厳しい時、水田の活用が一番と思う。遊んでいる農地をもっと有効に活用しながら1人でも多くの皆さんが、食べていける様な指導をお願いします。また、買入の時はよろしく。

貸借する農地等の情報がほしい。

農地が遊休化しているので農地取得資金等を借りて大々的に買いたい。


公社を通しての売買により登記料の免除がありがたいですね。

意欲ある農業者、特に優良な農地を所有することができるよう、農地の流動性向上に対しご尽力ください。


金利の無利子化を願いたい。

今、野菜作りをしている開田が区画整理され、市街化区域となり困っています。買い替えをして調整区域をと思っています。スムーズに買い替えができて農業が継続できるよう協力していただきたい。


農生産物の価格下落で誰も農業をやっていく自信がない。他の産業と同じくらいの収入があれば誰もが農業をするようになる。努力ばかりではとてもしきれない。




農地の集積に対して、貸し付ける地主さんに何かメリットのある政策があればと思います。




直接公社への要望ではありませんが、現在の状況では農業で生活できません。県や農協等が力を合わせて、国に働きかけて農業の安定を図っていただきたいと願っております。



現在農地所有120a、借地220a耕作している状況で、さらに農地の買入を考えているが、コンバインの容量が小さいので大きくしたいが手が出ません。




公社がどのような機関なのか知らない人が多く、広報の必要があると思います。




公社利用で、農地取得した場合のメリット・デメリットをもう少し理解したいのでパンフレット、資料がほしい。



土地利用型農業への支援を強化しないと遊休地が増えるばかりです。




土地を買うときに、いろいろな手続きが多すぎる。もう少し簡単な書類作成にしてほしい。



公社の手数料をもう少し下げてほしい。



農地に関する情報を定期的に提供していただきたい。



タバコ農家にとっては、土地（田んぼ）を輪作体系で作っていかねばならない。安い小作料で貸してもらわないとコストがかかりすぎる。米価も安くなっているし、・・・独り言です。済みません。